

イベント総合内容

作成者：多田恵実 宮崎桜

<イベントの目的>

“インフラメンテナンスについて住民への認知と理解度の上昇・現在人材不足として問題になっている建設業界、土木業界への勧誘・地域魅力の再発見”

<イベントの簡単な構想>

公民館などでインフラの勉強会を行ったり橋や道路などの模型を参加者と一緒に作ったりする

↓

作製したチェックシートやマイシティレポートを用いて実際に点検を行う

↓

点検結果をもとに橋の清掃活動を行う

↓

高欄の錆を落とし、ペンキを塗る

↓

参加者に感想を聞き、今後の活動につなげる

※橋や道路などの点検、清掃、インフラについての勉強会だけでなく見学やまた来てもらえるために魅力のある遊びなども行えたらいいなと考えている。(例えばダムの見学やめったに入ることのできない瀬戸大橋の内部見学・湖ではボート体験や川の近くでは魚釣りなど)

(イベントを継続させるために)

- ・ イベントを継続させるために2,3ヵ月に一度ぐらい実施する。
- ・ 毎年イベントを運営するための学生を有志で集める。
- ・ 学校内でイベントの参加について呼びかける。

<魅力・橋梁点検>

・府中湖大橋（香川県坂出市 綾川）

◇府中湖・橋の魅力

府中湖は綾川のドンドロ淵に堰堤(府中ダム)を築いて造られたダム湖である。府中ダムに隣接した綾川浄水場で、水を浄化して工業用水をつくっている。湖の中央には高松自動車道の斜張橋と、弧線を描くアーチ橋の府中湖大橋があり、美しい姿を湖面に映している。そして、緑豊かで府中湖大橋から見た景色は絶景であり、上流の滝宮とともに「新さぬき百景」に選ばれた。また、ブラックバスの釣りスポットとしても有名である。年間を通してカヌーの練習やカヌー競技の大会も行われている。

◇橋梁点検

写真を見て分かるように路面のひび割れや雑草、照明(付属物)等に錆がある。橋の清掃やカラーリングを行うと観光客増加につながるのではないだろうか。

※ダム施設の見学とダムカードの入手は県営水道事務所にお問い合わせすると可能である。

◇写真



← 府中ダム

← 府中湖大橋 正面



← 【府中湖大橋から見た景色(見えるのは高松自動車道の橋)】

「参考文献」

<https://www.sakaide-kankou.net/spot/scenic/fucyuu-lake.html> (府中湖ダム)

<https://gooba.co.jp/kagawaken-sakaideshi-fuchuko-5136.html> (府中湖の見どころ)

<インフラ勉強会の説明内容>

・インフラエンジニアの主な仕事内容

設計 得意先や顧客、依頼人などの要望をヒアリングして新しいネットワークシステムを企画する仕事。メンバーと一つの仕事をするための共通項として設計書の制作。設計書は、簡単に考えると自分以外の人に買い出しを頼むときに材料をリスト化することと同じこと。

構築 設計書をもとに新しいネットワークシステムを構築する仕事作業が多そうで難しそうと思うかもしれないけど、自分で PC を買って行う作業の規模を大きくしたもの。

運用・保守 常にシステムを稼働させるためにネットワークの監視・トラブル対応をする仕事

・香川県的大型構造物のインフラメンテナンス

ケーブル点検

命綱を付けて高いところの点検をしている

マグニチュード 8 程度の地震対策も行われている。



・道路や橋の路面損傷や植栽による視距障害、支柱や高欄の腐食などについての説明

● <路面損傷>

(チェックポイント)

ひび割れやポットホールといわれる地面にできる穴、車が通った後のタイヤの痕で地面が波打った形になるものなど。

道路のひび割れ



地面にできた穴 (ポットホール)



(発生原因)

舗装に発生した一方向のひび割れに雨水が浸透し、路盤の支持力を弱め亀甲状のひび割れを発生させるなどがある。

- <植栽による視距障害>

(チェックポイント)

道路表識や信号の視認の妨げになっている草木など。

(対策方法)

危険箇所は植栽帯を撤去するか、草丈が低く性質強健な樹木及び草類に植え替えするなど

- <支柱や高欄の腐食>

(チェックポイント)

電柱などの支柱の根元の腐食や支柱が周囲の地面よりも低く雨水などが溜まりやすいところや支柱を固定するためのコンクリートに埋設するボルト（アンカーボルト）が腐食しているところ。高欄や転落防止柵が錆びているかなど。

(対策方法)

支柱の状態が悪い場合は、支柱やアンカーボルトの交換。

高欄、転落防止策の取り換え又は塗装を行う

<https://daini2.co.jp/syokusyu/article-0287-author-uzuz03/>

インフラ点検のすゝめ 現場の目線 ー実践編ー

著者：公益社団法人日本ファシリティマネジメント研究部会